

動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三

発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史

電話 029・227・6020

FAX 029・227・6291

動労水戸第31回定期大会を開催

外注化攻撃粉碎し必ず仲間を取り戻す

動労水戸は1月13日、第31回定期大会を開催し、外注化・強制出向阻止、被曝労働絶対反対を闘い抜いた2012年の闘いを勝利的に総括し、2013年の新たな闘いの方針を決定し、執行部体制を強化した。2012年の闘いの地平の上に立ち、3月「ダイ改合理化」と駅外注化・グリーンスタッフ雇い止め攻撃との闘いに打って出よう。13春闘を闘い抜き、必ずやすべての出向者と奪われた労働条件を取り戻そう。反合理化・運転保安闘争を闘い、鉄道の安全と労働者の未来を守る闘いに総力で決起しよう！

大会冒頭の委員長あいさつで、石井真一委員長は「昨年10・1の外注化・強制出向の攻撃に対し、動労水戸は団結の解体を許さず勝利したと総括したい。何よりこの攻撃に対し、今でも職場には怒りがあふれた闘いが続いているからだ。10・1外注化攻撃も、私たちの闘いもまだ始まりではない。JR東日本が目指しているのは駅・乗務も含めた現場業務の全面的な外注化であり、必ずや安全の崩壊をもたらす。反合理化・運転保安闘争を貫き反撃しよう」と訴え、さらにJR東日本が発表した「グループ経営構想V」について「資本主義の生き残りをかけて労働組合の破壊と鉄道の海外輸出を推進する宣言に他ならない」と弾劾し、「青年労働者が続々と反乱を開始している。外注化を阻止する道は、

組合の団結強化しさらなる闘いへの挑戦を提起

多くの来賓の方々のあいさつを受けたのち、2012年度経過報告と2013年度運動方針案提起を受けて活発な質疑応答と討論がなされた。

被曝労働拒否のストライキへの支援ありがとういさいました。

現場と執行部の意思疎通がまだまだ不十分。執行部はもっと風通しをよくすべきだ。(大子) 出向者とJR本体の仲間が外注化による偽装請負を恐れる会社の指示で話せなくなっている。(家族会)



大会の締めくくりに参加者全員で団結ガンパロー

ライフサイクルに出される青年が昨年より増えた。駅外注化の進行とセットだ。大子では出なかつたが手を緩めず闘いたい。(大子)

予算を大幅に上回る決算ということだが、東労組では考えられないような非常に分かりやすい財政報告だ。(勝田)

外注化以降も青年たちの怒りは止まらない。私も短時間では話せないほど怒っている。5000円分の旅費を取り戻して欲しい。(勝田)

参加した組合員からいざれも真剣で率直な発言がなされた。これに対して石井委員長の総括答弁が行われ、経過報告・財政・運動方針案が満場の拍手で採択された。新役員選出では、執行部全員の留任に加え、新たに勝田・大子・平の各支部長と青年組合員の照沼君・羽部君が特別執行委員に選出された。特別決議で「『全証拠開示大運動』で獄中39年、無実の星野文昭さんを取り戻す決議」が採択され、大会宣言採択の後、辻川慎一副委員長が「金も労力もかけたが、それだけ大変な時代であり大変な攻撃だった。ストライキと闘争の連続、それに対する青年たちの支持の拡大で、本当に参っているのは

会社と東労組だ。外注化・強制出向粉碎・旅費5000円奪還を春闘でやり抜こう。安倍政権打倒のために3・11二周年の福島現地集会と3・24三里塚全国集会に動労水戸の旗を立てよう」とまとめた。最後に石井委員長の団結ガンパローで大会を締めくくった。

続いて開催された組合旗開きも、勤務終了後の組合員が合流し大いに盛り上がった。動労水戸の2013年の断固たる闘争の幕があがった！

【2013年度執行委員】

執行委員長 石井真一(水戸)

執行副委員長 辻川慎一(勝田)

書記長 高野安雄(勝田)

執行委員 国分勝之(勝田)

木村郁夫(大子)

潮田秀徳(水戸)

鈴木義之(土浦)

坂場力男(大子)

杉井文彦(勝田)

外岡弘(大子)

池田学(勝田)

小野裕通(平)

特別執行委員 川崎寿志(勝田)

河信昭寛(大子)

門馬高弘(平)

羽部圭介(大子)

照沼靖功(勝田)

経営構想Vと対決し団結の強化・拡大を